



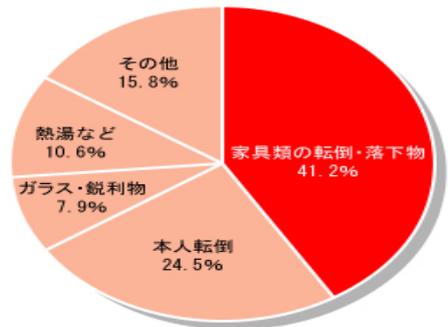
# 家具の転倒から 身を守ろう

## 家具類の転倒・落下防止 が必要な理由

阪神・淡路大震災では、家屋家具などの倒壊による圧迫死が犠牲者全体の9割を占めました。そしてそのうちの約1割が家具類の転倒による死亡と考えられています。

また、新潟中越地震での負傷原因の約4割が家具類の転倒などによるもので、その他の地震でも同様に、負傷原因のトップになっています。

中越地震での負傷者の4割が家具類の転倒などによるもの



新潟県中越地震における最大の負傷原因は家具類の転倒や落下であり負傷者の41.2%を占めました(東京消防庁の調査から)。このことは、転倒対策をしておけば負傷の危険性をかなり軽減できることを示しています。



### ■家具は最小限に、または作り付けに!!

家具が減れば落下物等も減り、怪我を防ぐとともに、避難経路の確保にも繋がります。

### ■重たいものは高いところには置かない!!

大地震発生時には、普段はびくともしないテレビ・冷蔵庫・ピアノが凶器になります。ベルト等で固定しましょう。

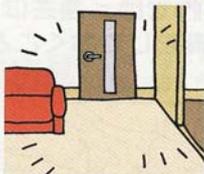
### ■家具は寝室に置かない!!

寝ているときほど無防備なことはありません。寝室には転倒する家具類を設置しないか、しっかり固定するようにしましょう。また、照明器具の下で寝るのも大変危険です。

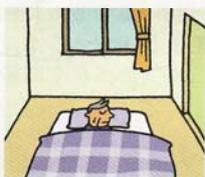
## 家の中の安全対策

### 家の中に逃げ場となる家具のない安全なスペースをつくる

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように、配置換えをする。



### 寝室、子ども・高齢者・病人のいる部屋には家具を置かない



就寝中に地震に襲われたとき、倒れやすい家具があると危険。

### 出入り口や通路には物を置かない

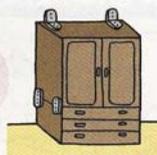
安全に避難するための通路を確保するため、できるだけ物を置かない。



### 家具の転倒や落下を防止する対策をとる

重い家具や背の高い家具は、固定器具や「耐震粘着マット」などを利用して対策を。ただし金具や支え棒の場合、取り付け天井や壁に相応の強度が必要になるので設置場所を十分検討する。

タンス・本棚

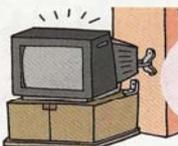


L字金具や支え棒などで固定。二段重ねの場合はつなぎ目も金具でしっかり連結しておく。

食器棚



扉が開かないように留め金をつける。さらに収納物の落下を避けるために棚板には滑り止めのシートやふきんを敷くと安心。



テレビ

できるだけ低い位置に置き、柱などに金具でしっかりと固定する。上には水槽や花瓶などを置かないこと。



照明器具

鎖と金具で数か所留めて補強。蛍光灯は蛍光管の落下を防ぐため、両端を耐熱テープで留めておく。

※器具はホームセンターなどで発売されています。

### あなたのお宅は大丈夫？チェックしてみましょう!!

- 寝室・幼児・高齢者のいる部屋に危険な家具はないか
- 部屋の出入り口付近や狭い廊下・階段などに物を置いていないか
- 地震時の出荷を防ぐため火気の周辺に家具を置いていないか
- 家具の上にガラス製品やテレビなどは置いていないか
- 重いものを下のほうに収納し、倒れにくくしてあるか
- 前のめりよりも、後ろもたれ気味に家具を置いているか

**地震対策に、ほんの少しの手間と、投資を。  
ちょっとした備えがあなたや家族を救うかもしれません。  
まずは、あなたの身近なところから始めてみませんか？**